※令和３年度以前入学生用

学校番号	2004

令和４年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	改訂版　生物基礎（数研出版）						
副教材等	リード Light ノート生物基礎（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・学習を通じて科学的な自然観や倫理観を養い、科学的に探究する能力と態度を育てるために、学習者は毎時間の授業を、常に目的意識を持って受けることが望ましい。
・授業の中だけでなく、日常生活の中の様々な場面で、知識を活用し新しい見方を得ることにより、豊かな考え方、感じ方を身に付ける。
・授業中のノートは、板書を書き写すだけでなく、自分なりにまとめたり、考え方のポイントや教員・クラスメイトの発言内容を書いたりなど、後から見ても分かる内容でメモを取るようにすること。

２　学習の到達目標

科学的な自然観や倫理観を養い、学習意欲を喚起し、科学的に探究する能力と態度を育てることにより、研究者として求められる素養を身に付けることも視野に入れ、知識の獲得に終わらず、知識を活用する力を身に付ける。また、生物に見られる多様性と共通性を分子生物学および細胞生物学的な方面から学び、我々人間も地球に住む生物として生態系とその保全について考えていくことのできる力を身につけることを目標とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	身近な生物や生命現象に興味・関心を持ち、生態系の機能や保全について考えようとする態度を身に付けている。	科学に関する与えられた課題をこなすだけでなく、自ら課題を見出し、解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫する能力を身に付けている。	実験で使用する器具をきちんと取り扱うことができ、実験で起こる様々な現象を見逃さない観察力を身に付けている。	生物の共通性や我々の体が持つ生命維持の機能をより深く理解し、また、地球上に存在するさまざまな生物がつくるバイオームと生態系に関する知識を総合的に身に付けている。
評価方法	・授業に向かう姿勢 ・内容に関する関心 ・提出物の提出状況 ・自己評価	・探究活動の発表 ・グループワークの取り組み ・学習の取り組みをまとめたレポート ・提出物	・実験器具などの取り扱いの状況 ・グループワークの取り組み ・学習の取り組みをまとめたレポート	・定期考査 ・小テスト ・提出物

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元の評価規準 （生徒の到達目標）	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生物の特徴　遺伝子とその働き	生物の多様性と共通性	○				a:身近な生物を通して生物の共通性や多様性について興味・関心を持ち、考えようとする姿勢を意欲的に持とうとしている。 b:細胞内共生の前後で生物がどのように進化し現在の生物の多様性に結びついているのかを考察し、自らの考えを表現できている。 c:実験器具の扱いなどを習得し、探究活動の過程や結果をきちんとまとめることができている。 d:エネルギーと代謝、DNA の構造と機能について理解し、知識を身につけている。	小テスト 提出物 レポート グループワークの取り組み 探究活動 定期考査
		細胞とエネルギー				○		
		呼吸				○		
		光合成				○		
		共生説		○				
		遺伝子の本体の構造	○					
		遺伝情報の複製と分配				○		
		遺伝情報とタンパク質の合成				○		
		生物の特徴、遺伝子とその働きによる探究活動			○			
2学期	生物の体内環境の維持	体液とその働き	○				a:われわれヒトを含む動物の体内環境の維持について興味・関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。 b:体内環境の維持がどのような意味を持つのかについて考察し、自らの考えを表現できている。 c:実験器具・生物の扱いなどを習得し、探究活動の過程や結果をきちんとまとめることができている。 d:体内環境の維持に関わるからだの仕組みや生体防御の仕組みについて理解し、知識を身につけている。	小テスト 提出物 レポート グループワークの取り組み 探究活動 定期考査
		肝臓、腎臓の働き				○		
		体内環境の維持のしくみ				○		
		自律神経系				○		
		ホルモン				○		
		体温		○				
		生体防御				○		
		生物の体内環境の維持に関する探究活動			○			

※令和３年度以前入学生用

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元の評価規準 （生徒の到達目標）	評価方法
			a	b	c	d		
３学期	植生の多様性と分布　生態系とその保全	植生の遷移		○			a:生態系の保全について興味・関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:生態系のバランスについて考察し、自らの考えを表現し、伝えることができている。 c:身近な生態系について探究活動を行い、その過程や結果をきちんとまとめることができている。 d:生態系の恵みと、われわれの生活が生態系にどのような影響を与えているのか事例に学び、生態系の保全の重要性を理解している。	小テスト 提出物 レポート グループワークの取り組み 探究活動 定期考査
		世界のバイオーム				○		
		日本のバイオーム				○		
		生態系	○					
		生態系のバランスと保全		○				
		植生と生態系に関する探究活動			○			

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。